

第五学年の実践

国語科学習指導案

令和3年10月26日（火）5校時

中央区立泰明小学校

5年2組

男子17名 女子11名 計28名

指導者 本多 麻美

1. 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう

教材名 「固有種が教えてくれること」

情報 統計資料の読み方

「グラフや表を用いて書こう」 （光村図書）

参考文献

「ビジュアルデータブック 日本の生き物 固有種・外来種が教えてくれること」

〈監修〉今泉 忠明 〈発行〉学研プラス

「グラフや表から環境問題を考える 日本の固有種①森・林・草原にすむ生き物」

〈監修〉今泉 忠明 〈発行〉汐文社

2. 単元の目標

- ◎ 情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができる。（知(2)イ）
- ◎ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思 B(1)エ）
- ◎ 目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。（思 C(1)ウ）

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）	・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ） ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ）	粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

4. 児童の実態

右の(表1)は、今年度の学習力サポートテストの国語科における結果である。校内平均正答率は、区平均正答率と比較すると6.5ポイント、全国平均正答率と比較すると16.5ポイント上回っている。領域別正答率も全ての項目で平均値を上回り、また、他教科(社会科、算数科、理科)の結果と比較しても国語科の平均正答率は高く、国語科を得意とする児童が多いことがうかがえる。

(表1) 国語科の平均正答率

目標値	65.6
校内平均正答率	84.3
区平均正答率	77.8 (校内比+6.5)
全国平均正答率	67.8 (校内比+16.5)

本単元と関連する問題について分析する。問題別正答率「説明文の内容を読み取る」、「文章を書く」については、(表2)にあるように、大幅に区や全国の平均正答率を上回っている。特に、「文章を書く」については、全国平均

(表2)

問題別正答率	説明文の内容を読み取る	文章を書く
目標値	61.7	58.8
校内平均正答率	82.1	85.3
区平均正答率	73.6 (校内比+8.5)	69.2 (校内比+16.1)
全国平均正答率	60.1 (校内比+22)	55.3 (校内比+30)

正答率より30ポイント上回り、文章構成を考え、テーマに即して書くことを得意としている児童が多いようだ。

第5学年になってからの説明的な文章教材は、6月に「言葉の意味が分かること」を学習した。この説明文では、筆者の考えとその説明にあたる事例を結び付けて読み進めた。文章の要旨を150字以内でまとめた時には、決められた文字数の中で自分なりに要旨をまとめようと、粘り強く学習する姿が見られた。説明的文章だけでなく、物語文の学習や読書にも意欲的に取り組む児童が多い。一方、国語科の学習に意欲をもてない児童もあり、学級内で学力の二極化が見られる。意欲が乏しい児童が国語科の学習に意欲的に取り組めるよう、授業内容の工夫が必要だと感じている。

次に、国語科の学習や、タブレット・ICTについての実態調査を行った。以下、調査の結果である。

(調査日：令和3年9月24日、学級児童人数28名 FORMS 記名式回答による) (別紙添付)

国語の学習を「好き」「まあ好き」と答える児童は70%を超え、特に「書く学習」を同様に好む児童も60%を超える。国語の学習はもとより、「書く」学習を好む児童がそれなりの割合を占めることが分かる。しかしながら、はっきりと「嫌い」と答える児童も前者は18%、後者も7%ほどおり、本単元で、どの程度その差を埋められるかということも課題となる。

研究主題との関連では、児童相互のかかわり合いに関する事項について特徴的な結果が出ている。

質問(3)の③④では、書いたり、話したりすることで考えが相手に伝わった時の気持ちについて聞いているが、楽しいと感じる児童が50%程度に留まっている。

また、同⑤⑥のように、自分の考えを先生や友達に褒めてもらった時の気持ちについても、喜びを感じる児童は50%程度に留まり、自分の考えをきっかけに相手や班の気持ちを変えられた時の喜びについても、50~55%程度に留まっている。

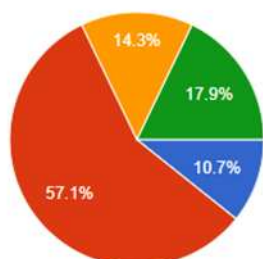
コロナ禍という特殊な状況に入り2年目となるが、学習の場面で、友達とかかわり合うことの喜びを感じることも自体が、若干薄れてしまっているような結果となっていることが分かる。感染症予防の観点をもちつつ、工夫してグループ学習を取り入れていくことで、友達と協力して学習することの楽しさやよさを感じさせたい。

一方、質問(4)⑩では、友達から、「アプリの中でコメントをもらったり、あげたりすること」への喜びを感じる児童が、67%にのぼることも同時に分かっている。本単元では、友達と意見を出し合う場面や、作り上げた意見文について、友達から助言をもらう場面などを設けている。児童たちにはそれらの学習を体験することで、友達やクラスメイトとのかかわりを今一度見つめ直し、友達の新たな良さを発見し、友達とかかわり合いながら学習することの楽しさに気づき、豊かな人間関係も育成できるような形で、学習効果が波及することを望んでいる。

アンケート結果

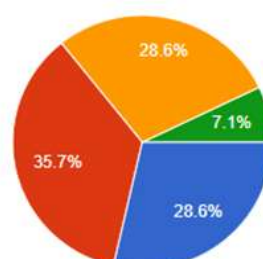
(1) 国語の学習は好きですか。

28 件の回答



(2) 自分の考えを書く学習は好きですか。

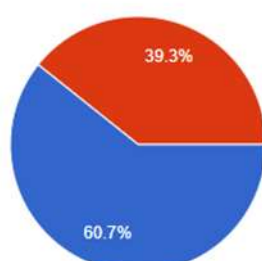
8 件の回答



● たいへん好き
● まあ好き
● あまり好きではない
● 嫌い

(3) 国語の学習で楽しいと思うときはどんな時ですか。①文を読み、何らかの感情を揺さぶられた時。

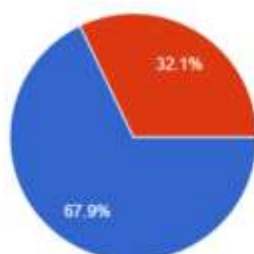
28 件の回答



● あてはまる
● あてはまらない

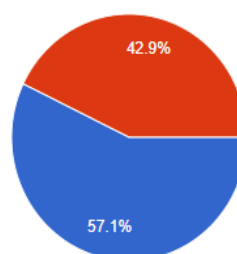
②自分の考えを文章で書き、うまくまとめられた時。

28 件の回答



③書いて伝えた自分の考えが相手に伝わった時。

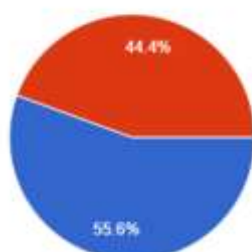
28 件の回答



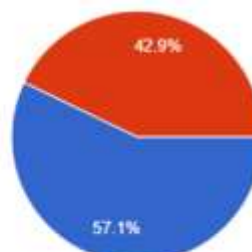
● あてはまる
● あてはまらない

④お話をして伝えた自分の考えが相手に伝わった時。⑤自分の考えが先生にほめられた時。

27 件の回答



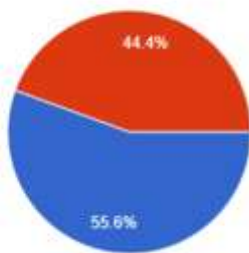
28 件の回答



● あてはまる
● あてはまらない

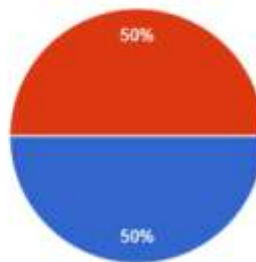
⑥自分の考えが友達にほめられた時。

27 件の回答



⑦自分の助言をもとに相手の考えが変わった時。

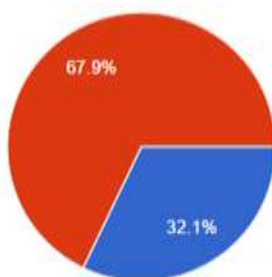
28 件の回答



● あてはまる
● あてはまらない

⑧自分の助言をもとに、班の考えが変わった時。

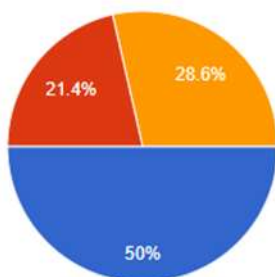
28 件の回答



● あてはまる
● あてはまらない

(4) タブレット学習についてのあなたの意識・心がけを教えてください。①タブレットを欠かさず毎日充電できていますか。

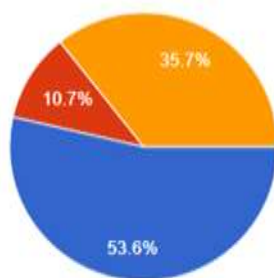
28 件の回答



● はい
● いいえ
● どちらでもない

②タブレットをあつかう時間は楽しいですか。

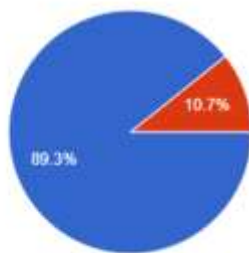
28 件の回答



● はい
● いいえ
● どちらでもない

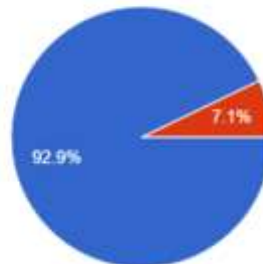
③タブレットでキーボードの入力を離なくできますか。

28 件の回答



④タブレットで調べたいことを検索できますか。

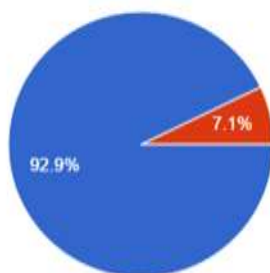
28 件の回答



● はい
● いいえ

⑤授業中、指定時間内に自分の考えを「提出箱」に提出できますか。

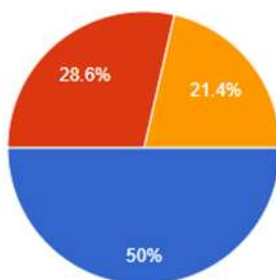
28 件の回答



● はい
● いいえ

⑥挙手して発言するよりも、タブレットに意見を書き込む方が気持ちを示しやすいと思うことがありますか。

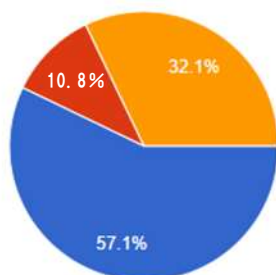
28 件の回答



● はい
● いいえ
● 挙手でもタブレットでも示せる

⑦WORD（ワード）で文書を作成できますか。

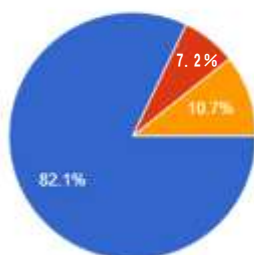
28 件の回答



● はい
● いいえ
● どちらでもない

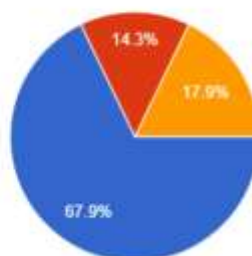
⑧ パワーポイントでスライドを作成できますか。

28 件の回答



⑨ 各アプリ内で、友達にコメントをあげられますか。

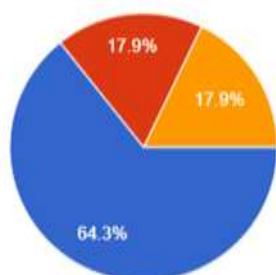
28 件の回答



● はい
● いいえ
● どちらでもない

⑩ コメントをあげたり、もらったりするのは楽しいですか。

28 件の回答



● はい
● いいえ
● どちらでもない

5. 単元について

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」で構成される複合教材である。指導の重点は、図表やグラフの扱い方にあり、特に気を付けたいグラフなどの読み取りについては、情報「統計資料の読み方」で取り上げている。図表と文章との対応を読み取ったり、それらの資料の効果を考えたりすることを通して、自分の表現にもいかすことが指導のねらいとなる。

教材文「固有種が教えてくれること」の特徴は、地図、表、写真、グラフといった多様な資料を提示しながら、筆者が主張を展開していることである。児童にとって、「固有種」はあまりなじみのないものかもしれない。筆者は、固有種が日本の豊かで多様な自然環境の素晴らしさを伝えてくれる存在であることを、さまざまな文章上の工夫を通して伝えようとしている。こうした筆者の思いは、児童の関心を引き付け、日本列島の自然や動物についての新しい見方をもたらすことが期待できる。一つ一つの資料の意味や効果と、本文とを対応させながら読み、こうして身に付けた観点を「書くこと」に生かしていく。

「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」では、今泉忠明氏の「固有種」を巡る豊富な文献の中から、児童が興味をもった資料を選び、学習を進めていくスタイルをとる。資料から読み取ったことを基に、疑問をもったり仮説を立てたりしながら学習を進め、自分の意見を作り出し表明する。気持ちを寄せた動物に対し、その動物がどのような状況になっているのか、探求心をもちながら調べさせたい。意見文は推敲を重ね、改善を図れるとよいと考えている。

6. 研究主題の内容との関連

(1) タブレット・ICTの活用場面

① 画像・動画の視聴による、視覚的な理解の促進

児童は、第4学年の社会科の学習で小笠原村について学習した際に、オガサワラオオコウモリについて知ったり、第5学年の総合的な学習の時間で奄美大島との交流をした際に、アマミノクロウサギの写真を見たりした経験がある。「固有種」について、さらに理解を促すために、タブレットを活用して、視覚的に理解できるようにしていく。

【教科書のQRコードより画像の閲覧】

「アマミノクロウサギ」、「ニホンカモシカ」の画像

【You tube より動画視聴】

「アマミノクロウサギ」https://youtu.be/_XDTldSzk4o

② 意見文のテーマに関する情報収集

「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」では、自分の選んだテーマに合わせて意見文を書く。自分で選んだテーマに関連した事柄で、補足で調べ学習を行う場合は、タブレットでインターネット検索し、情報を収集する。

③ Word を使用した意見文の作成

意見文は、Word を使用して作成する。初め、中、終わりの3つの段落構成で作文する。Word で作成することで、添削や資料の挿入が容易にできるようになる。児童によっては、タイピングのスキルに差があるので、進捗状況を確認し、必要に応じてローマ字表を使用させたり、文字入力用のアプリを使用させたりするなど配慮する。

④ ジャムボードを活用したグループ学習による資料分析

意見文のテーマのもととなるグラフ等の資料は、ジャムボードを使用し、グループで資料分析を行う。グラフ等の資料に対して、情報を読み取ったり、変化の仕方に疑問をもったり、仮説を立てたりするためには、多面的な見方が大切となる。また、グラフを分析することが難しい児童がいることも予想される。したがって、複数人のグループで資料を分析することで、様々な気づきや疑問、そこから生まれる仮説を集められるようにしたい。

⑤ スカイメニュー「みんなの作品」を活用した推敲・読み合い

タブレットのアプリ、スカイメニューの「みんなの作品」を利用し、互いの意見文の読み合いの場面を設定する。意見文を読み、良い点やアドバイスなどを付箋にてコメントし、よりよい意見文の作成を目指す。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現

① 意見文のテーマの焦点化

「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」では、グラフや表などの統計資料を用いて意見文を書く。教科書では、社会問題（ごみ、固定電話等）をテーマにして4つの統計資料を提示しているが、今回の研究では、教材文「固有種が教えてくれること」での学びや、教材文を読んだことによって高まった動物への関心を生かし、テーマを動物や環境問題等に関わる事柄に絞ることとする。単元を通して、固有種をはじめとした動植物、それに関わる問題について考えることにより、児童が意欲を継続し、主体的に学ぶことができるようにしていく。

② 筆者が監修した文献の活用

本を通して本の作者と対話することも「対話的な学び」に含まれると捉える。教材文「固有種が教えてくれること」の筆者、今泉忠明氏は、様々な文献を監修している。児童に人気がある、「ざんねんないきもの事典」も監修されている。本単元では、図書館の団体貸出を活用し、筆者の様々な文献に触れ、動植物や環境問題に対する筆者の考えをより深く理解できるようにしていく。

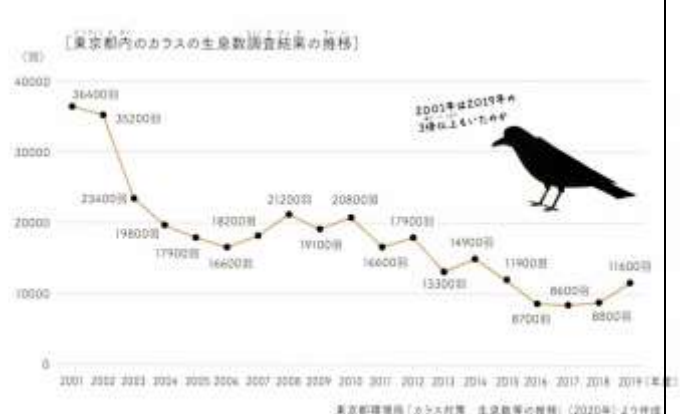
また、「グラフや表を用いて書こう」で意見文を書く際は、「グラフや表から環境問題を考える 日本の固有種」全3巻や、「ビジュアルデータブック 日本の生き物 固有種・外来種が教えてくれること」より、グラフや表を引用して意見文を書くこととする。以下、著書の資料と、その資料から考えられる意見文のテーマの予想である。

固有種に関する資料（今泉忠明氏の著書より）

考えられる意見文のテーマ



- ・食生活と漁獲量のバランス
- ・持続的な漁業の推進
- ・漁業と温暖化の関係
- ・漁業と職業



- ・カラスの量と都市のごみ
- ・カラスやムクドリなど、都市に集まる鳥類の問題と対策



- ・イノシシやシカによる農作物への影響
- ・シカの影響で枯れる森林
- ・自然のつり合いを考える様々な対策



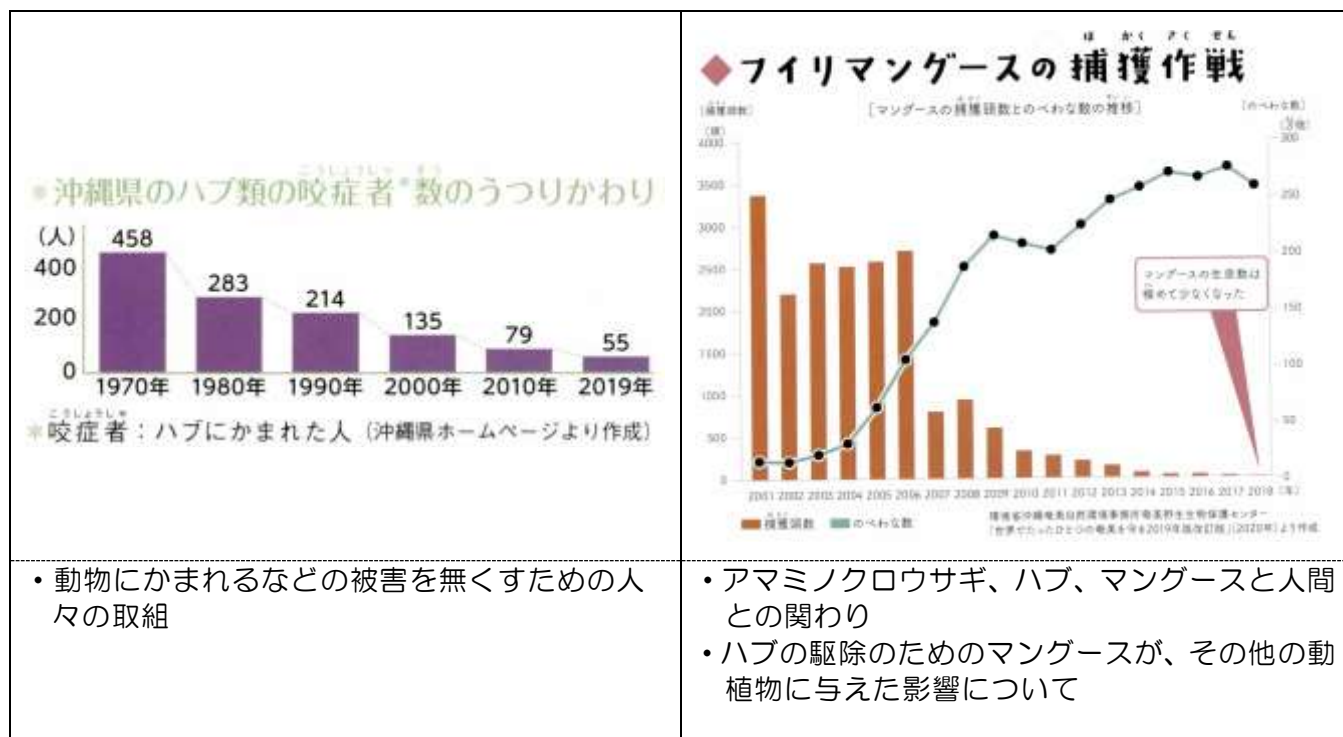
- ・外来種について
- ・アライグマの生息域の拡大と人間の行動との関わり（ペットを捨てること）



- ・ニホンザルによる農作物への被害
- ・ニホンザルの捕獲の是非
- ・人里への侵入を防ぐ方法や、追い払い等による共存の方法



- ・交通事故を減らすための取り組みの強化
- ・観光客による交通事故
- ・イリオモテヤマネコの活動の特徴や、ドライバーへの注意喚起の取り組み



(3) よりよく自分を高め、仲間と豊かにかかわり合えるための工夫

① 学習過程と振り返りの工夫

本単元の初めに、単元を見通せるワークシートを提示し、単元の学習計画を立てる。1時間ごとにめあてを確認したり振り返りを記入したりして、学習への目的意識や自身の課題をもって取り組めるように配慮する。

② 意見文の推敲に関わる観点の提示

より説得力のある意見文を作成するために、グループで推敲する学習活動を設定する。推敲する観点を以下のように提示する。特に、本単元で重視したい、「資料と文章との関わり」についてよく確認するように促し、児童の文章能力の向上を目指す。また、読み合いの際は感想は、肯定的な感想を伝え合うよう、助言する。

- 何を表す資料なのかを述べているか。
- 注目する言葉や数字を示し、資料から分かることを述べているか。
- 資料から考えられることを述べているか。
- 出典を明記しているか。
- 誤字や脱字はないか。
- 3つの段落で構成されているか。

③ 豊かなかかわり合いを目指したグループ編成の工夫

本単元では、グループ学習を主に2回取り入れる。1つ目のグループ学習は、ジャムボードを活用した資料分析の場面、2つ目は、推敲の場面である。グループ編成は、資料から情報を読み取る力や話し合いを進行できる力が、どのグループも均等になるように配慮して組むようにする。推敲の場面では、児童同士の話し合いをより充実させるために、同じテーマをもった児童同士でグループを組むようにする。

6. 学習過程と評価規準

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第一次	1	- 資料を活用した文章を読んだり、書いたりする活動の見通しをもち、学習計画を確認する。 「固有種が教えてくれること」を読み、初発の感想を書く。	- ワークシートを用意し、学習計画を学級全体で話し合い、見通しをもたせる。 - 教師が範読する。	- 学習課題を捉え、学習計画を立てようとしている。【態】(ワークシート) - 文章と図表などの関係に注意して通読し、初発の感想をもっている。【思C】(ノート)
	2	- You tube の動画「アミノクロウサギ」を視聴する。 - 文章の構成を押さえ、文章の内容の大体を捉える。	- タブレットを使用して You tube の動画を視聴させ、視覚的な理解を促す。 - 形式段落を確認し、本文を初め、中、終わりに分け、全体で確かめる。	文章の構成を押さえ、論の進め方を確認し、文章の内容の大体を捉えている。【思C】(タブレット)
	3	文章と資料を結び付けたりその効果を考えたりしながら読む。	さまざまな話題と、それに対応する資料、筆者の考え結び付けるよう助言する。	文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。【思C】(タブレット)
	4	③P138～P142 L3 資料1、2	④P142 L4～P144 L1 資料3、4、5	
	5	⑤P144 L2～P145 資料6、7	⑥P144 L2～P145 資料6、7	
	6	- 文章の要旨をまとめる。 - 筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。	150字程度でまとめるよう助言する。 - タブレット「みんなの作品」機能を活用し、読み合うようにする。	- 筆者の論の進め方を捉え、要旨をまとめている。【思C】(ノート) - 粘り強く、文章と図表などを結び付けて読み、筆者の考えを理解し、自分の考えをもとうとしている。【態】(ノート)
第二次	7	- P148の「統計資料の読み方」を確認する。 - グラフを読み取る。 - グラフと意見文を比べながら読む。	- ジャムボードを使用し、グループごとにグラフを分析する。 - ウナギに関するグラフと、そのグラフをもとにして書かれた意見文とを比べて読むように促す。	資料から読み取れることと、それを用いていることの効果を理解している。【思C】(タブレット、ワークシート)
	8 (本時)	グループごとにグラフを読み取り、読み取ったことを学級で共有する。	各グループに異なるグラフを配布し、グラフに対する気付きや疑問、仮説などをジャムボードでまとめるよう指導する。	資料から必要な情報を見つけ、資料から読み取れること、疑問、仮説などの自分の考えをもっている。【思C】(タブレット)

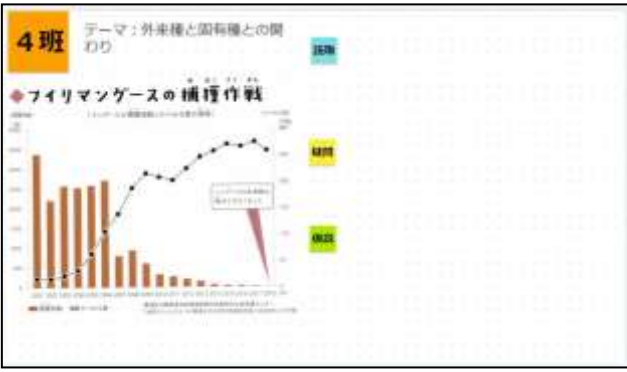
第三 次	9 10	- 動物や環境問題等の話題で調べたい事柄を決め、意見文を書く。 - 資料から分かる事実とそこから考えたことを書き出し、文章構成を考える。 - 図表やグラフを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫し、意見文を書く。	前時に各グループが発表したグラフの中から、興味をもった事柄や、書物の中からグラフを探すように促す。	- 資料から分かる事実とそこから考えることを書き出している。【思 B】（ノート、タブレット） - 例文の特徴を、自分の文章の構成に生かして書いている。【思 B】（タブレット）
	11	意見文を推敲し、完成させる。	- 同じテーマを選んだ児童でグループを組むようにする。 - スカイメニュー「みんなの作品」のアプリを使用させ、互いにコメントを送るよう指導する。 - 推敲の観点を与え、よい文章のポイントについて押さえる。	交流を通して意見文を推敲し、図表やグラフの使い方や書き表し方を見直している。【思 B】（タブレット）
	12	完成した意見文を読み合い、感想を伝え合う。	スカイメニュー「みんなの作品」のアプリを使用させて学級全体で読み合い、文書のよいところを伝え合うように促す。	互いの文章のよいところを見付けることができる。【思 C】（発言・タブレット）

7. 本時[8／12時]

(1) 目標

資料から必要な情報を見つけ、疑問、仮説など、自分の考えをもつことができる。

(2) 指導計画

時間	○学習活動	◇支援 ☆評価
5	1. 本時のめあてを確認する。	
	資料を読み取り、動物に関する問題について、自分の考えをもとう。	
10	2. グループごとに、資料を読み取る。 (ジャムボードの活用) (配布するジャムボードの例) 	◇「読取」「疑問」「仮説」の言い表し方を確認する。 「読取」：～ということが分かる。 ～が増えている。 「疑問」：なぜ、～なのだろうか。 「仮説」：～なのかもしれない。 ～な可能性がある。 ◇ジャムボードに入力する際のルールを全体で確認する。 ・グループのボードにのみ書き込む。 ・人の意見を勝手に消したりいじったりしない。 ・自分のコメントには名前を入れる。 ◇机間指導し、分析が難しい児童には、変化が大きいところに注目することや、数値を比較することなどについて助言する。 ☆資料から必要な情報を見つけ、資料から読み取れること、疑問、仮説などの自分の考えをもっている。(タブレット)
10	3. グラフから読み取ったことを話し合い、まとめる。	◇グループで集まって話し合わせる。 ◇グループのボードを見て、必要に応じて付け足し等しながら、意見をまとめるよう促す。 ◇さらに調べたいことをインターネットで調べてもよいことを伝える。
15	4. 話し合ったことを発表する。	・各グループ2分程度で発表させる。
5	5. 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	◇ワークシートに振り返りを記入させる。 ◇次時は、グラフから読み取ったことをもとにして、意見文を書くことを伝える。

(3) 授業観察の視点

- ・タブレット、ICT を十分に生かすことができていたか。
- ・資料から情報を読み取り、自分の考えをもつことができていたか。
- ・学習を通して、仲間と豊かにかかわり合うことができていたか。

8. 当日記録、成果と課題

(1) 分科会提案

この単元は新学習指導要領になってから、書く教材として導入され、今泉忠明さんの「資料の良さ」を生かして、意見文を書くことにつなげる学習となっている。

本学級では、7つの班に対して、6つの資料を活用していたが、難しい題材もあったため、資料を半分に減らして行った。本時では、様々な資料に触れて、そこから自分の意見を書いた。その際、「ヒントカード」なるものを準備し、支援が必要な班に対して配布した。

本授業はICTを活用し、それぞれのタブレットに課題を送信できる点から、今後、感染症が拡大しても活かしていくことができる。また、教員もアナログではなく、ICT・Jamboardアプリをしたことに本研究の意義と考える。

(2) 協議会記録により

① タブレット、ICT を十分に生かすことができていたか。

- ・主体的に学習している姿が見られ、タブレットの操作がスムーズだった。
 - ・ジャムボードを使ったことで、他の児童の意見も参考にでき、意見が出せていた。
- 以上の点が挙げられた。

課題としては、学級、学年でルールを徹底することに難しさがあった。本時以外では、データを消されたと勘違いされ、消し返すような場面が見られた。

② 資料から情報を読み取り、自分の考えをもつことができていたか。

- ・情報を読み取ることはでき、そこから仮説を立てられていたように概ね感じたが、資料から数値が下がっていく因果関係が資料一つだと分かりにくいところもあった。グラフの数値が下がっていると、どうしてこうなるのかという仮説を立てるために、もう1時間増やしてもいいのではないか。
- ・児童の中に、「増えたり減ったりしている」という子がいたが、全体の傾向に目が向かなかった児童に対する手立てはどうするか。

以上が挙げられた。

分科会としては、「ギザギザしている」ということでもよし。「全体的に減っている」などのクラスが減ってきた理由を自分なりの考えを踏まえて書いていけばいいというように考えた。相手を説得させるような自分なりの根拠を考えていけば本授業では良しとし、その様子を「主体的」と捉えた。同じような学習をする上で、読書を生かしながら動物に親しみながら進めていくと、児童も学習に対してスムーズに入っていくことができたと考える。

③ 学習を通して、仲間と豊かに関わり合うことができていたか。

- ・インターネットの検索は、今回必要あったのか。今回は仮説を十分に出し合い、意見交流をできれば良いのではと考えた。
- ・「よりよいかかわり方」とは、どのようなものか。

以上が挙げられた。

インターネットの使用については、その動物が何なのか分からない中で、検索することにより、その動物の姿を知ることが、学習意欲が高まることにつながるだろうと考えた。

本授業では、友達同士で司会・進行をしながら活発に意見が出されている場面が多く見られた。意見を出し合う中で、たくさんの議論が行われており、拍手が起こる場面もあった。そのような姿を「よりよいかかわり方」と、高学年分科会としては捉えている。

(3) 講師講評記録より

ICT の活用について

- ・ここまで国語の学習の中で使いこなせているのはすごいと感じた。
- ・「規律を守る」ということはしっかり守っていたように感じる。
- ・新しいデバイスが出たときには、必ずいたずら（悪さ）がある。これは人間の心情である。これは子供の心理である。先生はどういういたずらがあるだろうかと想定しておく必要がある。よい情報モラルの機会だと思って、進めていくことが望ましい。

- 今日の子供たちは、それなりの情報モラルが整った状態だと感じた。
- 国語の目標である「言語活動」が一番の目標。特に言葉と言葉の関係などが重要で、人の言葉と言葉の活用の中でどうやってICTを活用していくべきかを考えていく必要がある。今日の授業では、万遍なく目指すべきところにICTが活用されていたように感じる。
- 今日のめあてを初めに書かれていた。今やるべきことをモニターに映し、「めあて」などの重要な部分は板書するということは、ICTの活用として非常に良かった。
- 規律を守るために、児童の考えを画面上に出すことで、「見られている」という感覚を意識化するというのは、情報リテラシーの観点からもよいと思う。
- 読み取った場所を、タブレットの画面上を使って話し合っていくことがよく議論できていたように感じる。
- まずは手順を示してから、議論に進むとよい。
- インターネットで、すぐ分からない情報を調べていたのは、すごく良かった。（音声入力していたのもよい）

授業について

- 「自分の考えを深める」というところが、今回は重要だったと考える。
- 「自分のことで書く」というのが難しいところである。「たからじまの地図」（3年国語）でどこに着目すれば良いのか分からない児童に、自分はここに目を向けたというポイントを共有（支援）することで、手立てになった。
- 5年生は「比較する」（発芽の条件・ハクビシンとアライグマ、前と後など）というのがポイント。
- 「読み取る」ところから、「疑問」と「仮説」までどれくらいかかるのか、というところが見どころだったように感じる。
- 「可視化する」と誰がどこを書いているかがよく分かる。（万遍なくどの子も書いているグループや、特定の子たちだけが書いているグループ、分担しているグループ）ICTを使った協同学習の中で、どうやって見取ることができるかが（把握するかが）難しい。なかなかできていないグループに支援していくことがこれからも大事だと思う。
- 話し合いの中で、3人でやっていたグルーピングは非常に良い。（話し合いの中で、ちょうどよい人数だった。）
- 「仮説」は仮説なので、結論は教材文の中で今泉さんが書いてあるはずなので、結論を見た上で、どのように考えるか意見文につながっていくとよいのではないかな。事実に基づいた議論ができるようになっていくと思う。

授業をつくっていく先生方へ

- 国立教育政策研究所から出ている
「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参考にするとよい。
- 1人1台端末で授業を行うことで、よりよく自分を高める（自己肯定感）
- 自分の考えを表現し、他者に認めてもらう道具→仲間と豊かに関わり合う（他者理解）
- 他者の考えを知り、深く学ぶための道具→手を挙げた児童全員をあてることと同義
手を挙げない児童が発表していることと同じ
- 「ジグソー法」を取り入れていくのは、一つの方法だと考えた。
※協同学習を促すために、アロンソンによって編み出された方法である。1つの長い文章を3つの部分に切って、それぞれを3人グループの1人ずつが受け持って学習する。それを持ち寄って互いに自分が学習したところを紹介し合って、ジグソーパズルを解くように全体像を協力して浮かび上がらせる手法。
(ジグソー法-熊本大学 HP より引用)

(4) 成果と課題

〔成果〕

- 本単元を通して、毎時間のようにタブレットを使用するようにした。児童は、タブレットの扱いに慣れ、スムーズに操作ができ、主体的に学習していた。
- ジャムボードでは、グループごとに資料を提示した。教材文の筆者である今泉忠明氏の著書から引用した資料で、児童にとって身近であったり興味をもちやすかったりするものを、指導者が3つ選択した。学級全体で様々な生き物について話題にし、児童の動植物への興味・関心が広がることを意図していた。しかし、資料が多岐に渡りすぎていると、授業者が児童の読み取りを把握しきれなくなってしまう懸念も生じた。そこで、7つのグループに対して、3つの資料を提示することで、適切な資料数となった。また、動植物への興味・関心を高める点においては、本時の中でインターネット検索をし、動植物についてすぐに調べる児童の姿が見られた。そのように、すぐ調べることができる点も、タブレットの良さである。
- ジャムボードは、画面が整理され、意見が区別しやすいので児童にとっても扱いやすい。また、学習の流れが分かりやすい。本単元の第7時にて、ジャムボードの操作について指導した。第7時では、ジャムボードを扱うときや、グループでの意見交流時のルールを指導し、徹底させた。ルールが遵守できるよう、段階を踏んで指導したことで、スムーズに学習することができた。
- ジャムボードを使っの意見交流は、他の児童の意見を参考にすることができ、自分で考えることが苦手な児童への手立てとなっていた。また、意見を書く項目を「読取」「疑問」「仮説」と設定したが、資料から分かったことを文章化することが苦手な児童や、タイピングに時間がかかる児童は「読取」を入力し、得意な児童はさらに思考を働かせ、「疑問」や「仮説」を文章化する学習へと発展させることができ、児童の学習理解度、進度の違いに対応できた。



〔課題〕

- 統計資料にかかわる学習を国語で取り組む場合、数値や、数値の変化の読み取りにどの程度の時間を割り当てる必要があるのか検討し、指導計画を立てる必要がある。社会科や算数科との学習とは違い、あくまで読み取ったことを言語化し、資料と結び付けて論じることができるようになることが学習の要となる。指導者が、どのような言語活動をさせ、どのような意見を述べさせたいのか、どのような能力を身に付けさせたいのか、ねらいを明確にして指導する必要がある。
- 児童がタブレットを学習で使用する場合は、指導者が児童の学習状況を適宜把握しなければならない。「スカイメニュー」のアプリを使い、画面の状況を常に監督していく。また、スクリーンに全児童の画面を表示することも、児童の学習をコントロールする方法として有効になる。
- ジャムボードを使用した場合、他の児童のコメントを操作してしまう可能性がある。児童同士のトラブルが生まれないように、ルールを徹底する必要がある。

